

令和5年度春季展

# 描かれた前田利家



前田犬千代軍功 (090-1790)

令和5年4月29日（土・祝）～ 令和5年7月2日（日）

金沢市立玉川図書館 近世史料館

〒920-0863 金沢市玉川町2-20 TEL(076)221-4750

## はじめに

加賀藩祖前田利家は、天文6年(1537)に尾張国愛知郡荒子村の前田利春の四男として生まれた。幼名を犬千代といい、元服して孫四郎利家、のちに又左衛門尉利家と名乗る。

幼少のころより織田信長に仕え、天正9年(1581)8月、信長より能登国を与えられ七尾城に入り、北陸における織田勢力の領国支配の拠点を形成する。天正11年の賤ヶ岳の戦いでは、はじめ柴田勝家側に立ったが、羽柴秀吉の誘いに応じて降伏し、加賀討伐の先陣を勤めたことにより、能登国および加賀半国を与えられ、金沢城に入った。

慶長3年(1598)4月、家督を利長に譲ると、慶長4年閏3月3日62歳で没する。

右の「前田利家画像」は、明治42年(1909)に東京帝国大学が発行した石川師範学校の教材に含まれており、原本は承応3年(1654)、利常より寺領を寄進されている氷見市の光禅寺の所蔵である。

今回の展示では桶狭間凱旋図を中心に、近世史料館が所蔵する前田利家の画像を展示する。



前田利家 画像(090-1044-1)

## 1. 桶狭間凱旋図

前田利家像で象徴的なものが右頁の「前田利家桶狭間凱旋図」である。

これは織田信長に仕えていた利家が、永禄2年(1559)に信長の同朋衆である拾阿弥を斬り出仕禁止となったが、翌同3年に信長と今川義元が戦った桶狭間の戦いに密かに参戦し、首級をあげたときのものと伝わる。

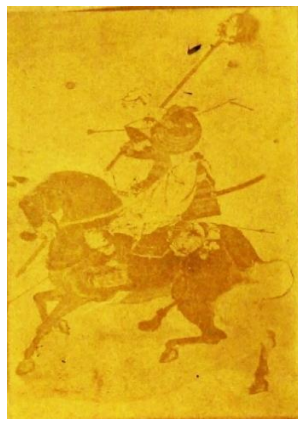
いずれも長柄の槍を右手に持ち、馬に跨がる姿で描かれ、利家の背に矢が刺さり、馬には首級をぶら下げる。

「槍の又左」の異名をもつ利家の勇士を表し、藩政期、藩士の士気を高めることから数多く描かれ、嘉永2年(1849)、利家の二百五十回忌と関連し、この頃をピークに描かれたとみられる。



前田犬千代軍功(090-1790)

前田利家桶狭間凱旋図  
(090-1386-356)



前田利家桶狭間凱旋図写真  
(090-1578-106)



前田利家桶狭間凱旋図(K7-371)



犬千代丸君之像  
(K7-86)



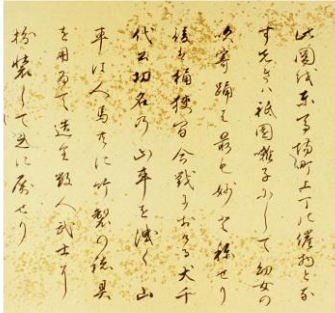
前田利家桶狭間凱旋図(写)(仮708-1-②)



前田利家桶狭間凱旋図(写)(仮708-1-①)

## 2. 旧藩祖三百年祭

旧藩祖三百年祭は、明治32年(1899)が藩祖前田利家の命日である慶長4年(1599)から300年の節目であることから、藩祖の偉業を讃えるため、旧加賀藩の八家により企画・開催されたものである。4月27日から5月3日の7日間にかけて、尾山神社を中心に行われたものであり、この時の出し物の中に桶狭間合戦を題材にしたものが見受けられる。



詞書 東馬場町上丁  
 (「旧藩祖三百年祭等各町催物画」  
 090-1221-155)



東馬場町(上・中丁) 祇園囃子・桶狭間合戦犬千代公の山車  
 (「旧藩祖三百年祭等各町催物画」090-1221-99)

## 3. 新聞附録

右のうち、左側の「前田利家馬上図」は久保田米僊の絵で、明治24年10月11日に金沢開始300年祭が執行されたことを記念して北陸新報の附録となったもの。一方、右側の「前田利家肖像画」は旧藩祖三百年祭が挙行された明治32年4月27日に北国新聞の附録になったものである。



前田利家馬上図(090-1635-253)



前田利家肖像画(32.24-44-①)



米國龍世博覽會出品  
 前田高德公勇戦之圖木彫額面  
 明治26年  
 作者 相川豊男

前田高德公勇戦之図木彫額面写真(090-1578-108)

## 4. シカゴ万博出品物

明治26年5月1日から5ヶ月間行われたシカゴ万博に出品された木彫の写真である。

円の中には、左方に走る馬に跨がり敵に槍を構える姿がみえる。

作者の相川豊男はからくり師大野弁吉の彫刻の弟子である。